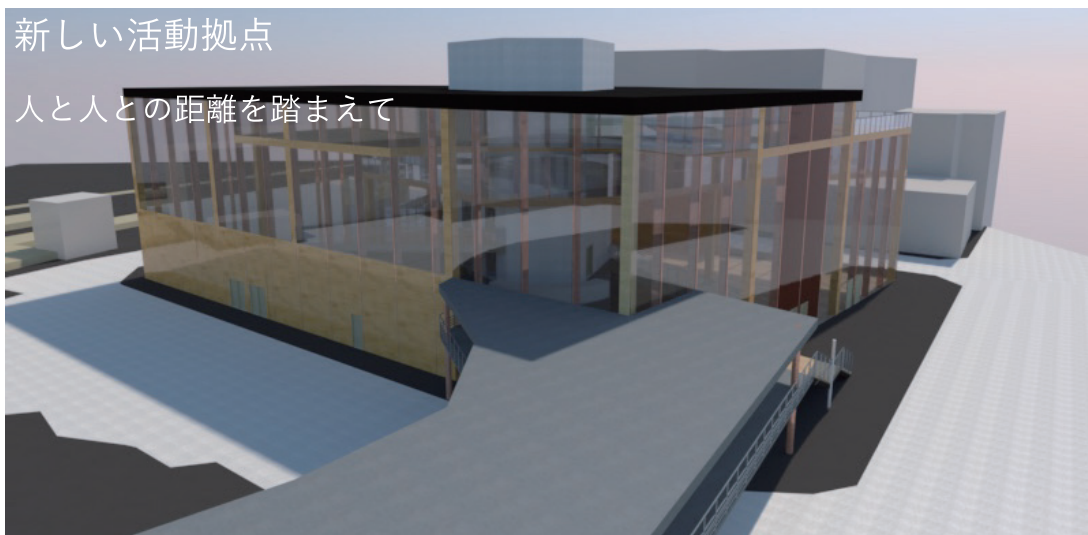


新しい活動拠点

人と人の距離を踏まえて



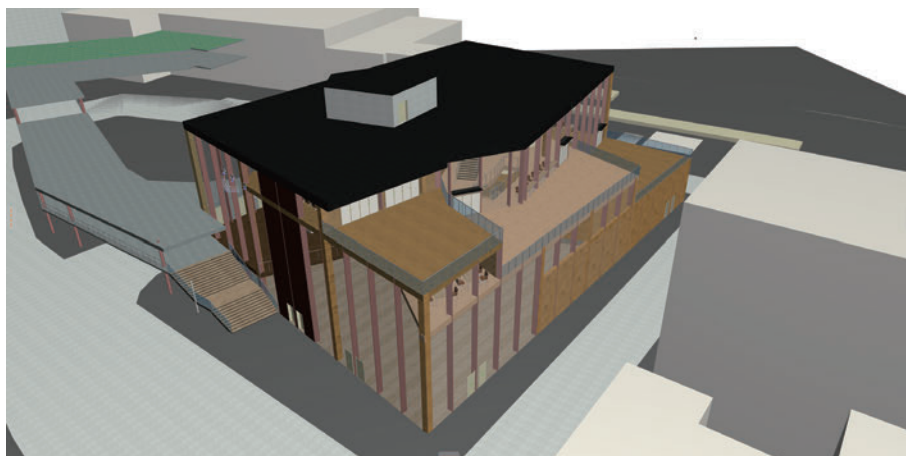
大土井琢人
建築設計計画Ⅰ研究室

□コンセプト

▶コロナ禍の中で、人と『直接会って会話が
できず』寂しい思いをしたこと、長い通学
時間を費やす必要がなくなった分、日々のタ
スクへの『気持ちの切り替え』が難しくなっ
たと感じたことを計画の発端とした。

▶新型コロナウイルスは、今日の私たちの暮
らしをより手軽で、より移動をせずに済み、
より孤独で済む形にガラッと変えた。PC や
スマートフォンのツールを使うことで家にい
ながらできる活動が多様化し、人同士の隔た
りがさらに広がりつつある。しかし、これは
『行動が空間に縛られなくなりつつある』『状
況に応じて、その人に最適な場所で、仕事や
趣味ができる』ことも意味する。

▶そこで私は、『コワーキングスペース』か
ら着想を得て、その機能をもっと生活方面に
広げ、それらオンラインツールを活用するこ
とにより、新たな時代におけるアゴラのよう
な、「気軽に多様な形で人々が触れ合い」「気
分や必要性に応じて多様な場所で活動するこ
とができる」建築を提案することにした。

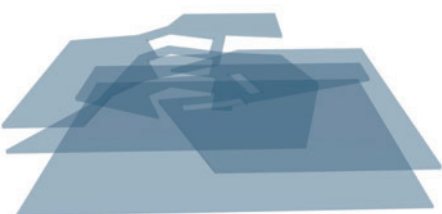


□デザイン

▶建物は、非常階段とエレベーターを内包し
た RC 造のコアを軸に、植物のロゼットのよ
うなスキップフロアにすることで、各フロア
の音や人の声、視線、活動音などが緩やかに
共有され、行き交うようにした。

▶下のフロアに行くほどに地域や利用者間に
壁が無く解放的に開かれ、逆に上のフロアに
行くほどに壁や仕切りがあるなど、比較的閉
鎖的な印象を与える構成になっているなど、
緩やかに分けられている。その中に出来る限
り多種多様な空間を用意することで、出来る
限り幅広い空間のニーズに応えた。

▶3 階から 4 階にかけての 2 フロアには「雲
型テーブル」を配置し、広い範囲を使う作業
に対応する他、集団で利用する場合は凸に
なっている部分、個人で利用する場合は凹に
なっている部分を使うなど、気分や用途に
よってテーブルのどこにでもつけるように工
夫している。



□プログラム

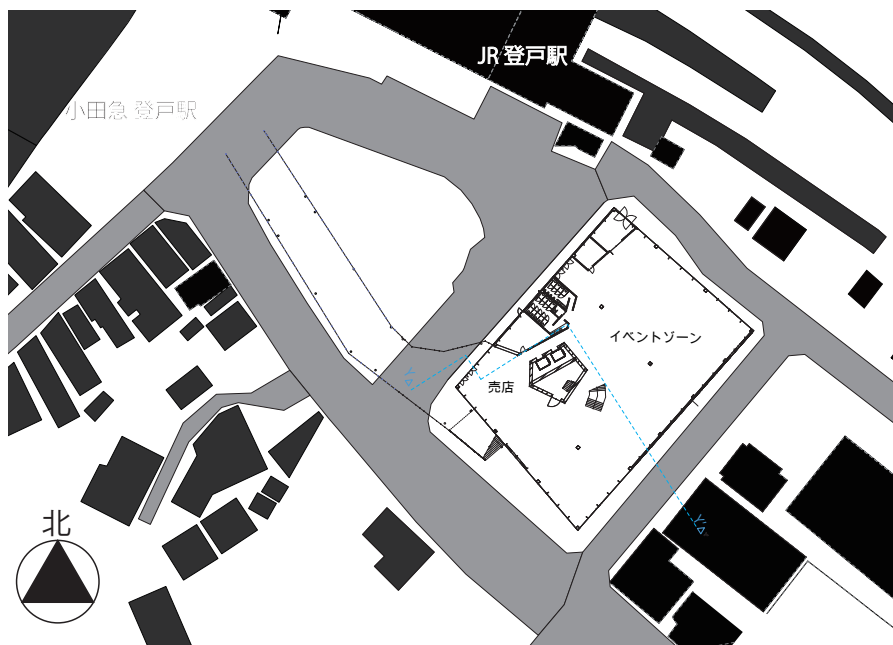
▶敷地の選定場所は、電車通勤で最も精神の
切り替えにちょうど良い時間とされる「30
分以内」を目安に、私鉄の沿線の中で最適な
土地を数カ所リストアップし、新宿・川崎・
立川から各駅停車で 30 分、本厚木からも快
速急行で 30 分以内で到着できる、登戸駅前
の敷地にした。利用者は登戸駅前のペデス
トリアンデッキからシームレスに 2 階の総合受
付に歩いて行ける。

▶1 階はその面積のほとんどを、ワークショッ
プや朝市、小規模な映画祭の開催など、多目
的なイベントに活用できる空間とした。イベ
ントの無い時はラウンジとして活用される。

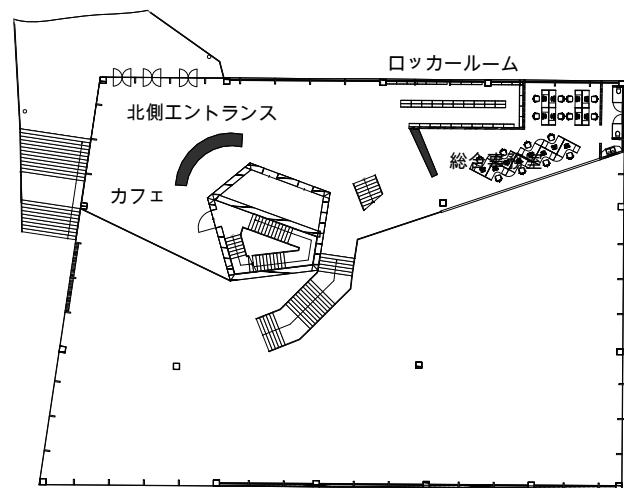
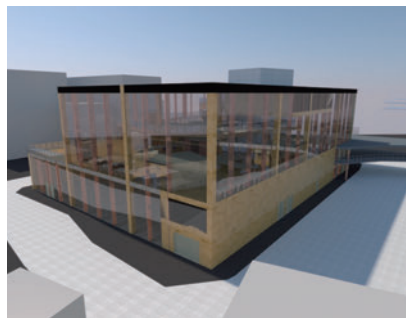
▶3 階から 4 階にかけては大きく空間を取り、
その中に各々が心地よい居場所となるような
仕掛けを点在させた。配置された三つのキオ
スクの中には本やボードゲーム等が収まって
おり、利用者はそれらを気軽に借りることが
できる。

▶従来の会議室のように、4 人から 10 人程
度の人数で使える空間は 3 階のボックス 2 つ
と 4 階に 3 つ配置している。そのうち 3 階の
2 つのボックスは、あえてドアと壁で間仕切
りをせず、環境音や光をそのまま通す空間と
なっている。

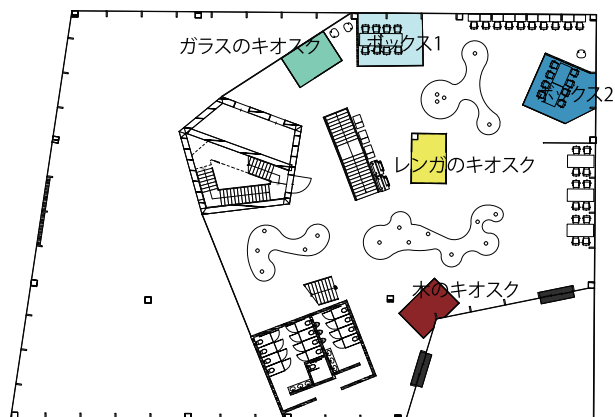
▶5 階には従来の自習室のように、画一的な
デスクとチェアの配列を用意した。また、フ
ロアの外周の大部分を防音ガラスで覆うこと
により、他と比べて静かな空間になっている。
る。



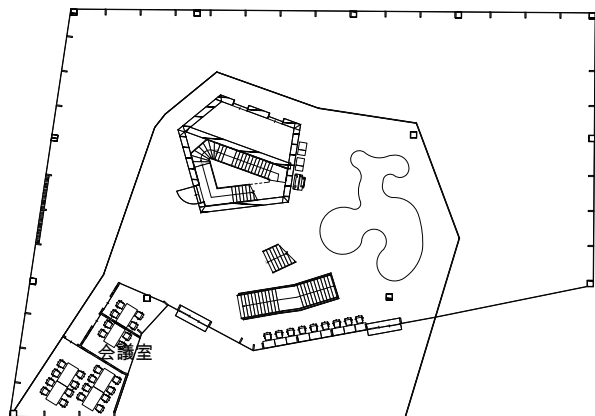
敷地図、1階平面図



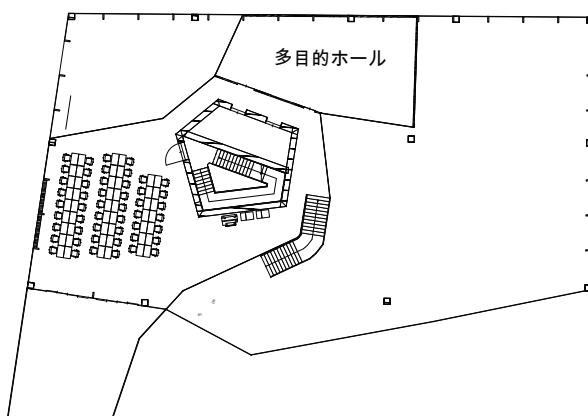
2階平面図



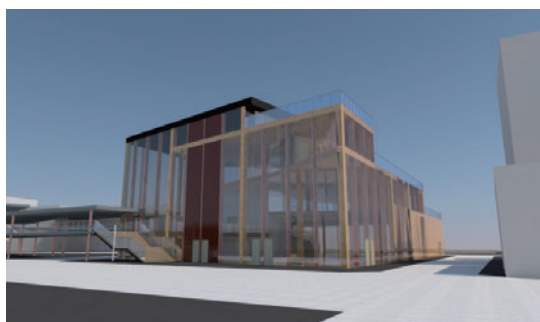
3階平面図



4階平面図



5階平面図



Y-Y' 断面図